

平成29年度第4回岐阜県事業評価監視委員会

議事要旨

1. 日時：平成29年9月8日（金）9：30～11：40

2. 場所：岐阜県庁 7階 7北1会議室

3. 出席委員：岐阜大学 教授 工学部	篠田 成郎
岐阜大学 教授 地域科学部	三井 栄
岐阜工業高等専門学校 准教授 環境都市工学科	水野 剛規
郡上森林組合 代表理事組合長	石田 五秀
岐阜県弁護士会 弁護士	福手 朋子
岐阜県農業協同組合中央会 専務理事	松永 政人
岐阜県商工会女性部連合会 副会長	村瀬 眞理子
各務原商工会議所 会頭	柳原 幸一
一般財団法人 岐阜県地域女性団体協議会 理事	度会 さち子
公募	浅野 勝博
公募 会社員	前川 利枝

4. 議事要旨署名委員の指名について

職務代理者である副委員長が署名委員として松永委員、村瀬委員、柳原委員を指名。

5. 議事

再評価実施箇所の説明及び審議について

- ①道路事業：道路改築事業「（国）157号 三橋工区」〔県事業〕
- ②道路事業：道路改築事業「（主）岐阜美山線 折立Ⅰ期工区」〔県事業〕
- ③道路事業：道路改築事業「（主）大垣養老公園線 鷺ノ巣工区」〔県事業〕
- ④道路事業：道路改築事業「（主）岐阜美濃線 極楽寺工区」〔県事業〕
- ⑤道路事業：道路改築事業「（主）神岡河合線 太江～杉崎工区」〔県事業〕
- ⑥河川事業：広域河川改修事業「一級河川 可児川」〔県事業〕
- ⑦河川事業：広域河川改修事業「一級河川 久々利川」〔県事業〕
- ⑧河川事業：総合流域防災事業「準用河川 西出川」〔岐阜市〕

6. 議事要旨

再評価実施箇所の説明及び審議について

- ①道路事業〔事業主体：岐阜県〕
 - ・審議事業：道路改築事業「（国）157号 三橋工区」
 - ・説明者：道路建設課 熊谷課長

【審議】

松永委員

東海環状自動車道の工事が遅れた場合は、この事業自体の進捗はどうなりますか。

説明者（熊谷課長）

併せて遅れることもあります。工事としては東海環状自動車道入口の右左折レーンの設置が主体の工事ですので、県が早く施工しても効果が発揮することはありません。逆に東海環状自動車道が早く施工されれば進捗にあわせて

工事を進めます。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

②道路事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：道路改築事業「（主）岐阜美山線 折立Ⅰ期工区」
- ・説明者：道路建設課 熊谷課長

【審議】

浅野委員

3点質問があります。1点目は、7月の現地調査では延長が720m、総事業費38億円との説明がありましたが、今回の説明では延長、事業費が変わっていますがなぜですか。2点目は、岐阜IC（仮称）への取り付け道路開設工事の施工主体はどこですか。3点目は、7月の現地調査では、伊自良川橋梁工事が今年度中に完成するとの説明でしたが、橋梁工事完成後利用できないまま平成32年度まで放置しておくのか。また伊自良川西側の開設道路は既存の道路に取り付きますか。

説明者（熊谷課長）

1点目ですが、この県道は街路事業と道路改築事業で事業実施していきまして、現地調査後、事業調整を行い、橋梁区間の一部を街路事業で施工することとなったので、道路事業としての延長を変更しました。費用対効果分析も変更を反映して行っております。2点目ですが、岐阜大学の北側道路（赤破線）は県、岐阜IC（仮称）への取り付け道路（青破線）は国が施工します。3点目は、橋梁施工箇所は東側は新堀川等に囲まれており道路がなく進入路がないので、伊自良川の橋梁を工事用道路として利用します。既存の道路とは平面交差で取り付きます。

篠田委員

伊自良川にかかる橋梁は、左右岸の堤防道路からの交通出入りはどうなりますか。堤防道路の上を県道が通る形になりますか。

説明者（熊谷課長）

堤防道路の上を県道が通りますので、堤防から県道へ出入りはできません。

篠田委員

重機の出入りは環状線側からということですか。

説明者（熊谷課長）

そういうことです。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

③道路事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：「（主）大垣養老公園線 鷲ノ巣工区」
- ・説明者：道路建設課 熊谷課長

【審議】

石田委員

この地域には養老公園がありますが、観光客数はどれぐらいの人数ですか。

説明者（熊谷課長）

平成27年度の観光客数は約72万人です。今回道路整備することで地域の活性化につながると思います。

水野委員

この事業は完成予定が平成35年度ということですが、東海環状自動車道の整備に合わせた完成予定ですか。

説明者（熊谷課長）

そうではありません。この事業では鉄道の高架を越える箇所があり工事に時間がかかりますので、この事業における工期、事業費、これらを考慮して完成予定年度を設定しております。事業の進捗が早まれば、完成も合わせて早くなります。

前川委員

写真撮影の位置についてですが、位置図の写真①と進捗状況の写真②が同じ撮影位置になっているようですが、違う写真になっています。写真の説明をお願いします。

説明者（熊谷課長）

進捗状況の写真①は、この事業の工区のうちの施工中の写真です。写真②は用地買収済の箇所です。位置図の写真①からアップで撮影したものが写真②になります。

篠田委員

養老インターを東西に貫く養老平田線はすでに完成して供用されていますか。また、費用対効果には、この養老平田線が供用された後の算出結果となっていますか。

説明者（熊谷課長）

養老平田線は工事中ですが、来月には完成します。また、費用対効果の算出は、この付近の全体の効果として捉えていますので、養老平田線がある場合の便益と、ない場合の便益の差で算出しています。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

④道路事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：道路改築事業「（主）岐阜美濃線 極楽寺工区」
- ・説明者：道路建設課 熊谷課長

【審議】

石田委員

この工区の東側に山崎橋があり、現在は2車線なのですが、将来的に改修計画はありますか。

説明者（熊谷課長）

この橋梁は狭く、混雑することは課題であると認識しています。今後対応したいと考えています。橋梁改修には河川との協議、地域との調整に時間がかかりますので、まずは本工区を完成させ、事業効果の早期発現を図ります。

浅野委員

4車線化はどこまで実施しますか。

説明者（熊谷課長）

後程説明します。

（神岡河合線 太江杉崎工区 審議のあと説明）

4車線化の範囲について説明いたします。美濃インターからテクノパーク西側の交差点まで、すべて4車線の都市計画となっています。本工区はその中の一部です。

篠田委員

区間を限定した4車線化でも効果が見込めるということは、その交通量はどこに抜けると考えていますか。

説明者（熊谷課長）

工区に接続していくつか2車線があります。交差点で混雑が見られますので通行が流れるようになります。

篠田委員

中濃総合庁舎までつながれば、きれいに流れるようになると思います。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

⑤道路事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：道路改築事業「（主）神岡河合線 太江～杉崎工区」
- ・説明者：道路建設課 熊谷課長

【審議】

篠田委員

本工区は、国道41号と直接繋がる計画ですか。

説明者（熊谷課長）

国道41号と繋げる計画です。

浅野委員

JR高山本線との交差は、どうなりますか。

説明者（熊谷課長）

平面交差として、現在JRと協議中です。高架の場合、事業費増となりますし、地域の要望がありますので、平面交差で調整しています。平面交差ですと他の踏切を廃止する必要がありますが、現道の踏切は生活道路として利用されているので、他の踏切の廃止の検討が必要です。

度会委員

交通量の変化ですが、国道41号は交通量が減少していますが、神岡河合線が完成したときの今後の増加率は、どうなりますか。国道41号の減少量に対し、神岡河合線はそんなに増えていないと思います。

説明者（熊谷課長）

神岡河合線の交通量の傾向としては増加傾向にあると考えています。当該路線は全線完成しているわけではないので増加量は少ないのですが、今後、全線開通することで一層交通量が増加すると考えられます。

篠田委員

国道41号での交通量だと高山一富山間というコースが入ります。東海北陸自動車道もあるわけですから、そのコース全部を合わせた中で、神岡河合線の交通量の割合が明確になっていくと思います。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

⑥河川事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：広域河川改修事業「一級河川 可児川」
- ・説明者：河川課 井上課長

【審議】

浅野委員

平成22年災害の浸水状況図をみると、河川とJR、名鉄線の交差箇所では浸水しているようですが、JR、名鉄線の橋梁の桁下高、橋脚の間隔が原因で、河川の水があふれて浸水したのではないのでしょうか。一般区間の河道掘削をするのではなく、JR、名鉄線や古い橋の橋梁改築をする必要があるのではないで

しょうか。鉄道事業者への働きかけは河川管理者として実施していますか。

説明者（井上課長）

可児川の河川改修計画は、1/70の規模の洪水を安全に流すことを目標に、河道掘削等を実施しています。可児川を横断している名鉄橋梁は、桁下に余裕があり、河川構造令の河積阻害率の条件を満足していますが、JR橋梁は、桁下に余裕はあるものの、橋脚の数が多いので河積阻害率は満足していません。しかし、名鉄、JRともに、計画上目標とする1/70規模の洪水は安全に流すことができます。したがって、ただちに、橋梁改築が必要とはなっていませんが、古い橋梁については改築した方がいいので、機会を見て調整、説明をしています。平成22年の洪水はこの計画規模を大きく上回ったため浸水被害が発生しました。

浅野委員

全体的に河道掘削をして断面積を広くしても、流木が橋梁に引っかかって浸水被害が発生することがありますが、道路橋梁を含め、流木は大丈夫でしょうか。

説明者（井上課長）

平成22年では、流木が橋梁に引っかかることはありませんでした。流木対策については、今般の九州の災害を踏まえて国で議論されていますが、河川改修の計画は、一般的にまず洪水を安全に流すために水が流れる断面積を縦断的に流れやすくして、全体的に水位を下げるのが重要とされています。橋脚は少ないよりも多い方が、水理現象として流木の引っ掛かりは発生しやすいと思います。しかし、実際に橋梁改築を行うとなると、橋梁管理者の経費負担が必要のため、バランスをとる必要があると思います。

浅野委員

河川はどこか1箇所破堤したらあとは破堤しないと思いますが、どうでしょうか。また、事業効果の氾濫シミュレーションでは、いたるところで破堤するというように示していると思いましたが、どうでしょうか。

説明者（井上課長）

この区域は破堤区域ではなく、氾濫する区域です。堤防があったとしても掘り込み河道で大きな堤防ではありませんので、あふれるような区域になっています。

浅野委員

洪水が堤防をオーバーした箇所は、すべて溢れ出すという考え方ですか。普通は破堤したら、他の箇所は大丈夫ということだと思いますがどうでしょうか。

篠田委員

この水位計算は2次元での計算をしているということですが、そうしますと結局、川の水位が上昇しますと溢れ出しますが、上流から常に水が供給されてきますから、あちこちから溢れ出します。そうすると、溢れ出す箇所が伝播して、低内地をある程度の水位を保ちながら水位が減衰する形で広がっていく。それが、氾濫現象というもので、それを全面的にシミュレーションしたのが、この図になります。

説明者（井上課長）

関東東北豪雨の鬼怒川の破堤を事例にあげますと、堤防が決壊した箇所は1箇所なのですが、上流下流でも溢れ出ている箇所はいくつもありました。2箇所決壊していてもおかしくない状況でした。便益算出にあたっては、堤防は構造上土できており、どこで決壊するか分からず、あらゆる地点で破堤の可能性があるため、治水経済評価マニュアルに基づき、網羅的に全部を包含する浸水区域で評価したものを便益として出しています。

篠田委員

結局洪水量は平面2次元で計算をしているので、橋脚の影響が全然考慮されていません。部分的に橋梁付近で3次元を用いることで、安全になるということを示さないと、理解しにくいのではないかと考えます。私はこの事業は効果があり大事なことだと思いますが、説明の方法として、皆さんは橋脚の多さを気にされるということを考えて、安全であると示していただくのがいいのでは

ないかと思えます。

説明者（井上課長）

3次元計算をした方がいいというのは篠田委員の仰るとおりです。しかし、2次元計算で、橋脚による水位上昇の効果が見込まれており、計画上はそれで充分とされています。3次元計算については、学術的には使用されますが、計画論においては、計算に要するコストに見合う程の効果が得られないため、全国的に採用されていないと思えます。県の河川事業でも一般的には用いていません。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

⑦河川事業〔事業主体：岐阜県〕

- ・審議事業：広域河川改修事業「一級河川 久々利川」
- ・説明者：河川課 井上課長

【審議】

石田委員

久々利川の縦断勾配はどれくらいですか。また、可児川はどうですか。

説明者（井上課長）

久々利川は1/150の勾配で、ある程度急峻な河川といえます。可児川では下流が1/400、上流が1/100です。

石田委員

堰堤をつくるような河川勾配ではないですね。

前川委員

環境への配慮について、「掘削敷高は平水位程度以上の高さとする」とありますが、これはどういう理由で環境へ配慮されているということですか。

説明者（井上課長）

平水位というのは普段の水の流れでの水位でして、常に水が流れていく部分の地盤を低くし、その周りの地盤を高くすることで、平水位の水深を確保して魚が生息しやすい環境を整えるという考え方です。

度会委員

事業概要に可児川にはなかった橋梁の架け替えがありますが、久々利川では架け替えをするのですか。

説明者（井上課長）

久々利川では橋梁架け替えは4箇所計画しています。内1箇所は完了、1箇所は施工中、2箇所は予定としています。先ほどの説明させていただいたとおり可児川の架け替えはありません。

度会委員

久々利川の架け替えには流木を配慮して橋脚の間隔を決めていますか。

説明者（井上課長）

久々利川は河幅が広くないので、橋脚なく施工します。

水野委員

30年に1回の洪水と70年に1回の洪水では、降雨の状況によって変わると思いますが、計画流量はどれくらい変わるのですか。

説明者（井上課長）

1/30の場合の資料はありませんが、例えば可児川では、1/70の場合は1200トン、1/100の場合は1400トンで、200トンの差があります。ただし、流域面積や地域の条件などで違いがでてくるので、一義的には言えません。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

⑧河川事業〔事業主体：岐阜市〕

- ・審議事業：総合流域防災事業「準用河川 西出川」
- ・説明者：河川課 加藤課長

【審議】

石田委員

河川線形で直角になっているように見える箇所がありますが、そこでは構造物を変えたり、河川幅を広くしたりしていますか。

説明者（加藤課長）

図上では直角に見えますが、河川ですので曲線で緩やかに水が流れるように護岸を設置しています。

篠田委員

このあたりは低地で河川勾配が急でなく、ゆっくり水が流れていきます。実際には板屋川に流入するので水位の関係で低速区間を設けないといけないということです。

浅野委員

事業の効果で、1/5規模の出水による氾濫想定図では、590戸が浸水家屋となっていますが、一方で過去の大きな水害では、昭和51年では200戸が浸水しています。昭和51年当時の降雨というのは、1/5の規模ではなく1/100の規模だと思いますが、洪水規模1/100に対し被害規模200戸であるのに、1/5に対して想定被害規模590戸なのはなぜですか。昭和51年の浸水被害は伊自良川上流の破堤した水が湛水したものだと思いますがどうでしょうか。

説明者（加藤課長）

西出川は一級河川板屋川に合流しており、さらに板屋川は一級河川伊自良川に合流しています。昭和51年の災害では、伊自良川が破堤したこともありましたが、当時は非常に降雨があり、排水機場、築堤も十分でなかったために、川の堤防で囲まれたこの地区では内水が標高の低いところから湛水したという状況を聞いております。そうした状況から、西出川の氾濫というよりも、川に囲まれたこの地区全体で湛水したということは1つの要因と考えています。また、今回のシミュレーションは西出川の流域についてのみ実施し、1/5洪水規模の水量がこの河幅で流した際に堤防を越えて浸水が広がる範囲であり、他からの流入水は考慮していません。

篠田委員

資料に、人口の経年変化の資料があります。昭和51年当時はこのあたりはあまり宅地がなく家が少なかったので、湛水面積は広がったのですが、床上床下浸水被害の世帯は少なかった。しかし現在は宅地化が進んでいるので1/5規模の洪水量でもこれだけの規模の被害が想定されると思います。浸水面積でいうと昭和51年当時も氾濫想定範囲一面は浸水したということだと思います。

説明者（加藤課長）

篠田委員の説明のとおりでして、岐阜市の北西部は道路整備により宅地化、市街化が進んでいる地区で、当時から市街化区域が拡大して現在ではかなり住宅が増えています。

【審議結果】

事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。